中国深圳市　広州市　上海市　都市調査２００９

都市地下空間国際会議調査団
ACUUS2009

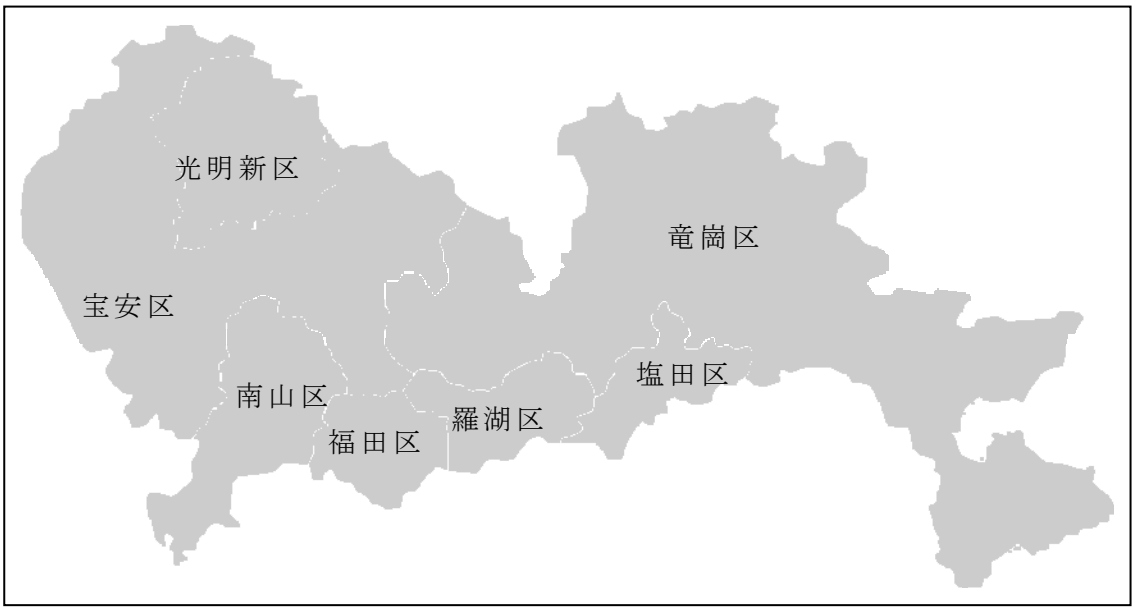
２００９年１１月１７日～２２日

深圳

香港と隣接する地理的重要性から 1979 年 3 月、宝安県を省轄市の深圳市に昇格させ、1980 年には改革開放路線を採用した鄧小平の指示により深圳経済特区が指定されると急速に発展した。なお、1981 年副省級市に昇格し、1988 年省級経済管理を認められている。
中国では、香港（23,125 ドル）・マカオに次いで所得が高い。
住民構成の特徴としては移民都市であることがあげられる。元来は宝安県として一集落に過ぎなかったものが、改革開放経済の過程で外部より労働人口が流入して都市が形成され、広東省でありながら広東語が使われる比率が極めて低い地域となっている。
３０年間で人口が４００倍になった。
３万人の村から１２００万人の都市へ

- 総人口(2006) 1,200 万人
- 戸籍人口(2006) 196.83 万人
- 常住人口(2006) 846.43 万人
- 常住人口密度 4,334 人/km²

羅湖区 - 経済特区東部
福田区 - 経済特区中心部、市人民政府所在地
南山区 - 経済特区西部
塩田区 - 経済特区東部、1997 年新設
宝安区 - 経済特区外、市北部。旧宝安県城所在
竜崗区 - 経済特区外、市東部
光明新区 - 経済特区外、2007 年 8 月 19 日に宝安区から分割して成立。



都市地下空間国際会議
ACUUS2009

深圳地下鉄地下街

深圳高層ビル群

深圳の秋葉原

広州市

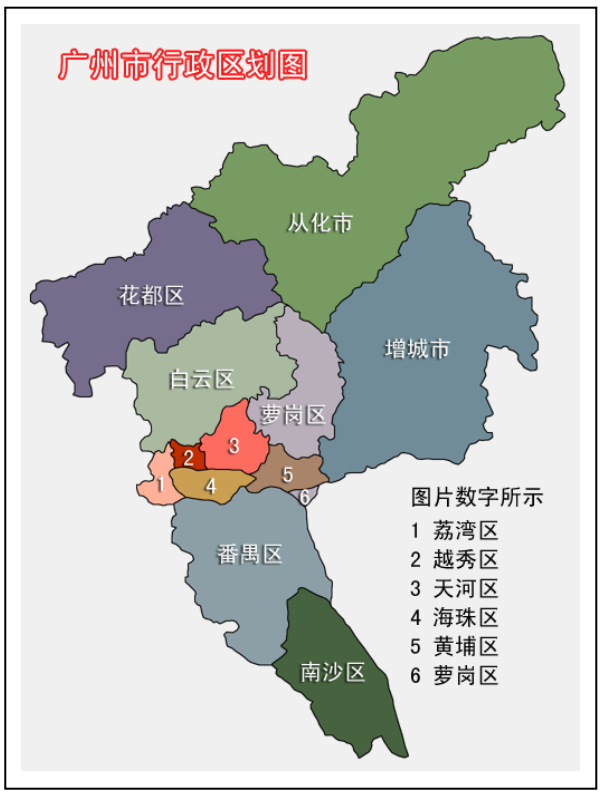
広州市（こうしゅうし）は中華人民共和国広東省に位置する副省級市。広東省人民政府が置かれる省都であり、華南地区全体の行政的中心でもある。人口約 713 万人であるがただし約 300 万程度と推定される流入人口があり、実質の常住人口は約 1,000 万人とみられる。上海市、北京市に次ぐ中国第 3 の大都市。昔から羊城と愛称され、また花城、穂城の名もあり、穂（拼音: sùi ）と略称される。地下鉄、高速道路網が発達している。

2008 年、グローバリゼーションと世界都市の研究グループおよびネットワーク（GaWC）により、第 2 級世界都市-に選ばれている。

アヘン戦争中の 1841 年では一時英軍に占領され、1911 年には孫文が広州蜂起を行い、辛亥革命の先駆けとなった。袁世凱の没落後、孫文は 1921 年越秀山南麓で中華民国大総統に就任し、広州が中華民国の臨時首都となった。1924 年には軍閥割拠の中国を統一するため国共合作を行い、黄埔軍官学校を設立、蒋介石が校長となり、周恩来が政治部主任を務めた。この時期には毛沢東も農民運動講習会をこの地で開催している。孫文没後、蒋介石の国民党は共産党と分裂し、1927 年共産党は広州コミューンを樹立したが、間もなく国民党軍の侵攻を受けた。蒋介石は 1928 年に首都を南京に移転している。1938 年日本軍が占領。終戦まで占領状態が維持される。

中華人民共和国成立後も香港に近い広州は中国の対外貿易港として機能し、毎年春秋には広州交易会（カントン・フェアー）が開催された。1979 年鄧小平が対外経済開放政策を取ると、深圳・珠海の経済特区を傘下に収める広州は経済的に急速に発展を遂げた。しかし多数の人口が農村から流入し、治安の悪化が社会問題となっている。

- 総人口(2007) 1,004.58 万人
- 人口密度 1,312.09 人/km²
- 戸籍人口(2007) 773.48 万人
- 戸籍人口密度 1,040 人/km²
- 市区人口(2007) 874.73 万人



広州タワーと新市街地開発

上海市

上海市（シャンハイし）は中華人民共和国にある直轄市の一つであり、人口は重慶に次ぐ第二位の規模を誇る。アジア第二位の株式市場を誇り、中華人民共和国を代表する世界都市である。2008 年には、グローバリゼーションと世界都市の研究グループおよびネットワーク（GaWC）により、東京、パリ、香港などと同ランクの第 1 級世界都市+に選ばれている。

中華人民共和国最大の商業・金融・工業都市であり、上海市が公表している調査によると、2008 年の上海市の市内総生産は 1 兆 3698 億元(約 18 兆円)であり、一人当たりでは 73,124 元(約 95 万円)である]。また、プライスウォーターハウスクーパースが公表した調査によると 2008 年の購買力平価で計算した都市圏 GDP は 2330 億ドルであり、世界第 25 位である。

- 戸籍人口(2007) 1,378.86 万人 - 常住人口(2007) 1,858.08 万人
- 常住人口密度 2,930.49 人/km² - 都市化率(2006) 88.7 %

アヘン戦争を終結させた 1842 年の南京条約により上海は条約港として開港した。これを契機としてイギリス、フランスなどの租界が形成され、後に日本やアメリカも租界を開いた。1865 年に香港上海銀行が設立されたことを先駆として、欧米の金融機関が本格的に上海進出を推進した。1871 年には香港と上海を結ぶ海底通信ケーブルが開通し、日本の長崎にも延伸された。

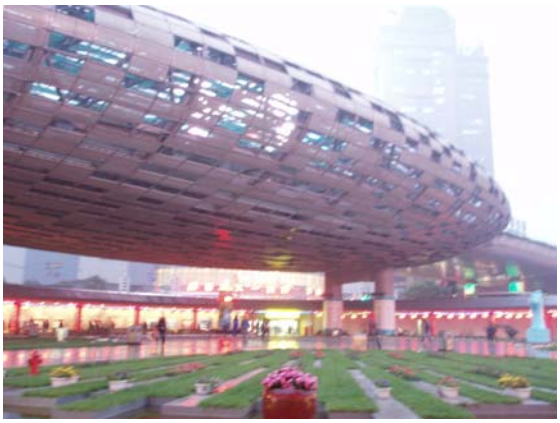
1920 年代から 1930 年代にかけて上海は極東最大の都市として発展し、イギリス系金融機関の香港上海銀行を中心にアジア金融の中心となった。上海は魔都或いは東洋のパリとも呼ばれナイトクラブ・ショービジネスが繁栄した。こうした上海の繁栄は、民族資本家（浙江財閥など）の台頭と労働者の困窮化をもたらし、労働運動が盛んになっていた。

1925 年に上海から始まった五・三〇運動は、中国における大規模な民族運動とされるが、同時に労働者・社会主義運動の台頭を示した事態であった。こうした状況を懸念した浙江財閥は、蒋介石と提携し反共クーデタ（上海クーデター）を決行させた。なお、中華民国の下で 1927 年に上海特別市となり、1930 年 5 月、上海直轄市が成立している。

1932 年には上海事変が起こり、日本軍機の爆撃を受け、1937 年に勃発した日中戦争で日本軍に占領された。1949 年の中華人民共和国成立により、外国資本は香港に撤収したが、1950 年代から 1960 年代にかけては工業都市として発展した。

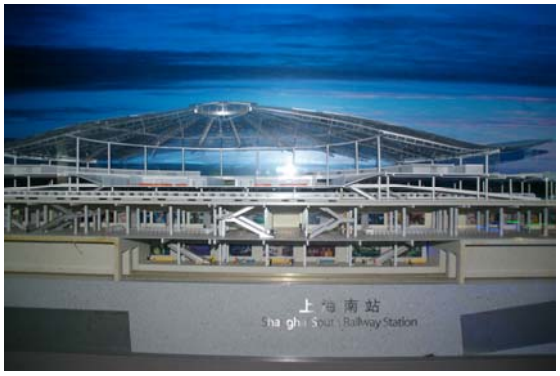
1978 年の改革開放政策により、再び外国資本が流入して目覚しい発展を遂げた。現在も 1992 年以降本格的に開発された浦東新区が牽引役となって高度経済成長を続けている。また上海市指導部から江沢民、朱鎔基、呉邦国、曽慶紅、黄菊ら中華人民共和国の国家主席、総理などの指導部を輩出している。

上海市が公表しているデータによると、2008 年の市内総生産は 1 兆 3698 億元(約 18 兆円)であり、一人当たりでは 73,124 元(約 95 万円)である。また、上海市中心部の平均世帯年収(手取り)は 26,675 元(約 35 万円)であり、上海市農村部は 12,662 元(約 16 万円)である[6]。



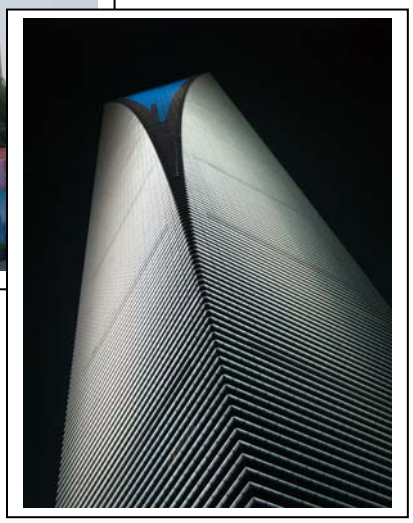
上海市街地交差点

上海万博模型



上海南駅

リニアモーターカー　時速４２０キロ



上海浦東地区

上海環球金融中心からのながめ
地上 101 階、高さ 492m